

作成日 2018年3月22日

課題名：IgG4 関連消化管病変・腸間膜病変の実態

◆研究の目的と概要◆

当院では、生検・切除など診療目的で採取された胃・腸間膜の病理標本を再検討し、IgG4 関連疾患の消化管病変・腸間膜病変の実態を明らかにし、今後のよりよい診療を行うことを目的とした臨床研究を行います。本研究は信州大学医学部病態解析診断学教室と共同で行い、情報・試料を相互に提供することがあります。本研究は、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「IgG4 関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究」（主任研究者：岡崎和一）からの研究費を用いて行います。

注) IgG4 関連疾患とは？

IgG4 関連疾患は、血中 IgG4 値の上昇や病変部での IgG4 陽性細胞の浸潤を特徴とする疾患で、全身の様々な臓器に腫瘍を形成し、臨床的には癌との鑑別が困難です。

◆対象となる患者さん◆

下記のいずれかに該当される方

- 1) 1985年1月から2007年12月の間に胃切除が行われ、腫瘍でないと診断された方。
- 2) 2000年1月から2007年12月の間に胃切除が行われ、早期胃癌と診断された方。
- 3) 1985年1月から2018年3月の間に腸間膜の切除あるいは生検が行われ、腫瘍でないと診断された方。
- 4) 1985年1月から2018年3月の間に膵切除が行われ、自己免疫性膵炎と診断された方。
- 5) IgG4 関連疾患と診断され、1985年1月から2020年3月の間に胃生検が行われた方。
- 6) 2018年7月から2019年6月の間に胃生検が行われた方。

◆研究に使用される情報・試料◆

診断目的で採取された病理標本を見直し、IgG4 関連疾患の疑いがある場合は特殊染色で検討し、既往歴、現病歴、血液検査、画像検査、治療内容とその反応性、経過を調べます。

◆研究方法◆

本研究は診断目的で染色済みの病理標本、残余検体、診療録等からの情報を利用します。

* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は

利用しません。

- * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

病理診断科 研究責任者 能登原 憲司

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明